部会グループ会議における意見と県の対応

資料３

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
グループA					
PJ１　子ども・若者					
1	米田委員	二次評価について	「意見表明等支援員」の登録者数だけでなく、育成された支援員が、実際にどのくらいの子どもたちの声を聞き、その声に対応できたのか等、具体的な活動状況についても確認していただきたい。これは、「医療的ケア児等コーディネーター養成研修の修了者数」に関しても同様。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
2	川向委員	評価分析について	アウトプットとしての数値よりも、それが、どのようなアウトカムに繋がったのか、結果としてどう変わったのかということを評価報告書に記載するべきではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
3	川向委員	データの取扱い	ＫＰＩの掲載順序も非常に重要だと考える。県民が評価報告書を見たときに、おそらく最初に出てくるものが、県として優先順位が高いのだと考えるだろう。「総合評価」も同様で、最初に記載されている内容について、県は注力していると、受け手は感じるので、その点を踏まえて、優先順位や注力ポイントが正しく伝わるよう、掲載順序や記述の重み付けを工夫することで、施策の実態に対する県民の理解と納得度を高めるべきではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
4	田口委員	二次評価について	気になった点としては、虐待件数が伸び続けているということ。可視化できているとも捉えることができるが、今後も動向を注視する必要があるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
5	田口委員	評価分析について	データ集の「児童相談所の一時保護所における平均一時保護日数」では、令和５年度が37.7日となっている。これは、調整が難しいケースが増えていることや、依然として相談件数も増えていることにより、児童相談所の対応が追いつかないからではないかと感じた。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
6	矢島委員	二次評価について	指標の「『安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること』に関する満足度」の結果は、昨年度から伸びていない状況にあり、保育の待機児童数などの主要なＫＰＩが目標を達成できていない状況で「概ね順調に進んでいます」と評価されると、県民は県に期待ができないと感じてしまうのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
7	川向委員	評価分析について	県民にとっても、この評価報告書を通じて、プロジェクトや施策を知る人が多いと思う。だからこそ、どのようなプロジェクトなのか、どのような施策なのかという説明を丁寧に行わないと、誤解されてしまうのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書内の取組に関する記載を再確認し、説明の補足が必要な箇所について、加筆しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ２　教育					
1	米田委員	構成施策B データの取扱い	昨年度指摘した「多様な学びを選択できる支援の実施」に関する内容として、校内教育支援センターの設置促進や学びの多様化を目指す学校への支援が記載されているが、具体的にどの程度促進されたのか改善が進んだのかが分からない。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策B「■分析」欄に記載しました。
2	米田委員	構成施策B データの取扱い	「関連する統計データ」には「不登校児童生徒数」の推移が記載されているが、このデータを掲載することで、不登校児童生徒数を減らすことが目標であるかのような誤解を招く可能性がある。実際には、学校に通わなくても多様な学びを選択できる環境を整備することが目指すべき方向であると理解しているため、不登校児童生徒数の扱いについては、記載をやめるなど慎重に検討すべきではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策B「■分析」【関連する統計データ】に、誤解を招かないよう説明を記載しました。
3	米田委員	二次評価について	多様な学びを選択しようとする人たちに、どの程度情報提供が行われているのかが重要ではないか。例えば、生徒が学校に行きたくないと感じた場合に、学校の先生が他の学びの選択肢についてどれだけ情報を提供しているのか、また、先生自身がそのような選択肢についてどの程度認知しているのかが不透明である。現場からは、そうした情報提供や認知の不足を指摘する声が聞かれる。今後は、適切な支援や情報提供が行われていることを目指し、そうした観点から評価が進められるべきだと考える。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	川向委員	構成施策A 評価分析について	「プロジェクトのポイント」として「変化の激しい社会に適応できる柔軟で自立した人材の育成をめざす」と掲げているなか、現状のＫＰＩがテストのスコアなどに依存している。 例えば英語のスコアが向上したことで異文化交流に積極的な生徒が増えたり、イベントへの参加が増えたりしたなど、柔軟な人材育成につながる具体的な成果（アウトカム）を付記することで、単なるスコアの向上以上の意義が伝わるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
5	川向委員	構成施策B 評価分析について	先生の働き方改革が進んでいることは評価しつつも、その結果として先生が生徒に接する時間や質がどう変化したかについて、保護者は関心を持っている。生徒と接する時間が増えたり、教育の質が向上したことが具体的に示されたりすることで、働き方改革が生徒への教育効果にも良い影響を与え、順調に進んでいるという実感を持てるのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策B「■分析」欄に記載しました。
6	堀越委員	総合評価 評価分析について	学校における子どもたちの安全を考える際、幼稚園や保育園など子どもに関わる職員による性犯罪や、子どもたちに向けられる性的な思考に関する問題が挙げられる。国から指針が示されており、県民の関心も非常に高いと考えられるため、評価とは直接関わらない事項ではあるが、県としてもこの問題を注視し、国の指針をしっかりと踏まえて対応していることを明示する一文があると、県民に安心感を与えることができるのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の総合分析【今後の方向性】に記載しました。
7	田口委員	二次評価について	神奈川県の特徴として、外国人の児童生徒数が大幅に増加している点が挙げられる。外国人家庭では子育て環境や教育環境に困難を抱える親御さんが増えており、その支援が非常に重要となる。教育分野においても同様の課題が存在しているため、こうした支援の必要性についても明記されているとよいのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	川向委員	二次評価について	プロジェクト10の「共生社会」においても、多国籍や外国籍の方々について触れられているが、働きや学びに来た人々の子ども世代に関する記載が不足しているように感じるため、県として子どもたちの権利をどう守るのかを明記することが必要ではないか。そのうえで、多文化共生、教育については、インクルーシブに進める方向性を示すことで、県民に安心感を与えられるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
9	坪谷委員	二次評価について	「CEFR A2レベル」などの日本人の学生や子どもがグローバルに活躍する視点とともに、プロジェクト内で外国につながる子どもたちの学びがどのように位置づけられているのかが気になる。教育委員会の課題として、神奈川県は外国籍の児童生徒の受入れに長い歴史を持つ自治体でもあるため、こうした点についてもう少し踏み込んで言及することが必要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
10	羅委員	二次評価について	私の勤める学校は外国人の子どもたちが通っているが、地域の小学校や中学校からヘルプを求められることがある。子どもたちは比較的早く友達と仲良くなり、その場に適応することが多いが、適応できない子どもいるため、最終的には保護者と先生の役割が非常に重要になる。 先生たちは、保護者対応が最も負担となっている部分であることを県としても認識し、その点について記載することで、県民、特に外国籍の方々や教員にとって安心材料に繋がるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ３　未病・健康長寿					
1	堀越委員	二次評価について	ＫＰＩの「健康経営に取り組む企業数」、「『かながわ治療と仕事の両立推進企業』認定企業数」のいずれも目標未達成と記載されているが、達成している企業は継続的に達成し続けている一方、達成できていない企業は全く進展がないという状況があるため、この乖離を踏まえたコメントがあると良い。こうした視点を盛り込むことで、補助やサポートを必要とする企業への支援につながる可能性が高まり、より効果的な取組となるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
2	川向委員	構成施策A 評価分析について	中小企業では、健康経営がコストとして捉えられることが多いが、特に人材確保が難しい昨今、健康経営を経営戦略として「攻めの投資」として位置づけることで、コストが理由で実施できないという状況を減らせるのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
3	川向委員	指標の設定について	現役世代が健康なまま長く働けることを測る指標が不足していると感じるため、例えば、「アプリを利用した県民の歩数が増加した」などの行動変容を示すデータが蓄積されれば、県全体の健康改善につながるアウトカムとして活用できるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
4	米田委員	構成施策A 評価分析について	ＫＰＩの「地域の高齢者が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、「生きがいづくり」「仲間づくり」をする「住民主体 の通いの場」への参加者数」の人数が増加している点は評価できるが、重要なのは、参加者の意識啓発による増加だけでなく、通いの場そのものが増えているかどうか。高齢者が生活圏内で選べる場が増えることは、健康寿命の延伸にとって非常に有用であるため、分析の視点としては、通いの場の増加状況にも言及していただきたい。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策A【関連する統計データ】に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
5	田口委員	構成施策A 評価分析について	「健康日本21（第三次）」の中では「ライフコース」として、子どもから高齢者まで一貫した切れ目のない健康づくりを行うという観点が重要視されているため、県の健康政策においても、その点を踏まえたほうがよい。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策A「■分析」欄に記載しました。
6	田口委員	二次評価について	また、アプリによる情報発信では届かない層がいる。医療や保険の分野では「誰一人取りこぼさない」ことが重要であるため、そうした方々への配慮を意識した施策が必要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
7	川向委員	二次評価について	逗子市では、住宅団地の高齢者が交通弱者となり買い物が困難な状況にあるが、地元スーパーが開始した「移動スーパー」が、単なる買い物支援に留まらず、外出や井戸端会議を通じて「未病改善」につながる効果を生んでいる。このような民間の活動は健康に資する重要な事例であり、県としても健康経営企業だけでなく、市民の健康や未病改善に寄与する企業を紹介・支援する取組を進め、民間の力を活用しながら、場を増やしていくとよいのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ９　生活困窮					
1	米田委員	データの取扱い	指標として、「『日々の生活に悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できている』と思う人の割合」が掲載されているが、支援を受けている当事者が十分に支援を受けていると実感できているかどうかが重要。 広く県民に意見を聞いて測る方法では、支援を受けている当事者の実感を十分に反映できていない可能性がある。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
2	川向委員	構成施策B 評価分析について	ＫＰＩ達成状況について、取組結果と要因分析が記載されているが、「県職員がこのようなことをやったので数値が上がった」という説明だけでは不十分だと感じる。重要なのは、数値の変化が県民にとってどのような具体的な効果をもたらしているのか。アウトカムが示されれば、ＫＰＩを適切に評価できるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
3	川向委員	二次評価について	物価高や格差の拡大が進む中で、困窮している当事者にとって「順調に進んでいます」という県の評価は当事者に絶望感を与える可能性がある。ＫＰＩの数値が目標を達成していても、物価高や格差拡大といった急激な社会環境の変化に当事者が置かれている実感を踏まえれば、県民感覚との乖離を埋めるためにも課題を明記した上で、評価を少し下げることも検討すべきではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
4	川向委員	二次評価について	データ集にある生活保護件数の増加は、困窮の課題を示す重要な課題ではないか。各施策がアウトリーチを進めている一方、物価高などの影響で生活保護家庭が増加している現状を課題として明確に捉え、対応策を検討する必要があるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
5	米田委員	二次評価について	子ども食堂の数やポータルサイトへの登録が増加している点は成果として評価できる。しかし、こども食堂の半数が月一回程度の開催で、それで困窮家庭への支援として十分に効果を発揮しているわけではない。団体が単独で活動するには限界があるため、官民を超えた連携を推し進める施策を進めるべきではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
6	矢島委員	二次評価について	民間のアイデアベースで運営されているこども食堂に行政として支援を行っているものの、生活を十分に支えるものではない。施策として民間の活動を組み合わせて進めている指標はあるものの、子供の貧困化が進んでいる状況の中、「順調に進んでいます」と評価することは非常に危険。現状を正しく捉え、より効果的な施策を検討する必要があるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
7	堀越委員	二次評価について	生活困窮への取組が「順調に進んでいます」と評価されている点には疑問を感じる。評価を一段階下げることで伸びしろを提示し、「政策として成果がある部分は認めつつ、社会環境の急激な変化や複合的な課題に対応しきれていない現状を踏まえ、これらに取り組む必要がある」という今後の決意表明を盛り込む記載方法が適切ではないか。 特に、単身世帯の困窮が増加している状況や、数字に表れない困窮を看過せず、具体的な対策を示す必要があるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	川向委員	データの取扱い	生活困窮の評価を行う際には、相対的貧困家庭の数などのデータを基に判断するべきだと考える。特に、シングルペアレント世帯の収入は相対的貧困率が非常に高く、非正規雇用の方も男女問わず貧困率が高い傾向にある。データ集には相対的貧困率の記載がないため、貧困を語る際にはこの指標が解決に向かっているかを確認する必要がある。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
9	川向委員	二次評価について	私たちが行う二次評価については、県が一次評価を行ったＫＰＩを基にしつつ、ＫＰＩでは見えない社会的課題を議論に盛り込み、より包括的に評価するもの。その観点から、一次評価より一段階評価を下げるべきではないかと感じる。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
10	川向委員	構成施策B データの取扱い	KPI「かながわ子ども・若者総合相談ＬＩＮＥ」及び「かながわひきこもり相談ＬＩＮＥ」の友達登録者数と、関連する統計データ「ＳＮＳを利用したひきこもり及び子ども・若者の相談数」のデータは、横に並んでいたほうがわかりやすい。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
11	米田委員	指標の設定について	KPI「生活困窮者自立相談支援の新規支援プラン作成数の割合」については、新規支援プランの作成数を目標に置いているものの、虐待件数は相談件数を基に評価している。本来は新規相談件数を確認する方が困窮の実態をより反映するのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
12	矢島委員	指標の設定について	相談件数では、件数の増減をポジティブに捉えてよいか判断が難しいため、県ではこのような指標としているのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ10 共生社会					
1	羅委員	構成施策B 評価分析について	評価報告書には企画委員会の参加人数のみが記載されており、開催者側の人数や実際の参加者数（外国人、日本人、留学生など）が不明。横浜華僑総会が中国文化を広めるために若者たちと努力しているものの、参加者が少ないという肌感覚がある。参加者数や実績を明確に記載することが必要ではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書の構成施策B「■主な事業の取組状況」欄に記載しました。
2	米田委員	二次評価について	排外主義の風潮が強まる現在の状況を考えると、多文化共生のイベントに参加する人々は、相当な思い入れを持っている方々だと思う。そのため、参加者から「よかった」という感想が出るのは、厳しい状況の中で集えたことへの意義の高さによるものかもしれない。しかし、参加人数の減少や多文化共生への理解が後退している可能性が非常に気になる。このような社会状況の中で、この分野はさらに努力が必要だと感じる。そのため、伸びしろを示す意味で、あえて低めの評価をつけることで、今後の県の取組を後押ししたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	川向委員	二次評価について	ＫＰＩの平均達成率が89.3%であるものの、県の一次評価で一段下げ、「やや遅れています」とした点については、二次評価として妥当だと考える。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
4	川向委員	指標の設定について	昨年の二次評価でも「ともに生きるかながわ憲章」の認知度が低いことが課題として挙げられていたが、認知度向上だけでなく、その先にある共生社会の具体的な目標を設定する必要があるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
5	川向委員	二次評価について	医療的ケア児の家族を支援するNPOの活動を通じて、テクノロジーを活用し、障がい児が目だけでゲームを楽しむ様子や、作業療法士が子どもたちのできることに着目して支援する姿を見て、当事者の可能性に気づき、視野が広がった。このような当事者を理解する機会を増やすことが、「多文化共生」、「障がい者支援」、「ジェンダー平等」の促進につながるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
6	坪谷委員	指標の設定について	地域差などの問題はほかのプロジェクトでもあると思うので、県央・県西部など地域ごとに記載することも検討していただきたい。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
7	堀越委員	二次評価について	障がい者や高齢者の介護サービスの現場では、重度の介護や医療的ケアを必要とする方々を地域で支える介護福祉士やヘルパーの担い手が減少している現状がある。 共生社会の理念を掲げることは非常に重要であり、やまゆり園の事件を経験した自治体として「ともに生きるかながわ憲章」の意義は大きいもの。しかし、その理念を実現するためのマンパワーやリソースが不足し、現場が厳しい状況に陥っている点についても、具体的な課題としてコメントを盛り込んでいただきたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	堀越委員	構成施策A 評価分析について	障がい者の地域移行を進めるうえで、グループホーム自体の数は少なくないが、重度の方が暮らせるグループホームは限られるため、重度の方を受け入れ可能な、というニュアンスを評価報告書の中で汲み取っていただけるとありがたい。	対応済み	

資料３

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
グループB					
PJ4　文化・スポーツ					
1	中村委員	二次評価について	共生共創事業が、どうしても高齢者に偏りがちである。共生共創事業は、津久井やまゆり園事件をきっかけとして始まった事業なので、障がい者の活動にもう少し目を向けていただきたい。高齢者の方の参加が多くなる事情は分かるが、共生共創事業のコンセプトとして、障がいのある方も文化に触れる機会があるということを大切にしていただきたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
2	中村委員	構成施策A 用語について	「マグネットカルチャー」を略して「マグカル」の名称については、せめて、「マグネットカルチャー（マグカル）」と記載しないと、何の略称かがからわからないのではないか。	対応済み	
3	中村委員	構成施策A 用語について	「未病」という言葉が文化の中で出てきた時、文化芸術振興審議会では、医学的な健康状態を良くするところまで文化として責任が持てないため、「未病」という言葉を、高齢者に関する記載に限ることにしたという経緯があったため、共有させていただく。使う場合も、「未病改善」や「未病対策」といった表現をしないと日本語として間違ってしまうのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策A、Bの「分析」内の表記を改めました。
4	助川委員	二次評価について	神奈川文化プログラム認証制度は、十分に周知できていないことが課題なので、県としてもより力を入れて、デジタルやLINEなどを活用し発信すると良い。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	海津委員	指標の設定について	すでに最終年度の目標値を達成している場合、そもそもの目標値がこのままでいいのか。また、「指標」を考えるうえで、最終年度の目標値を50％とすると、県民の２人に１人が活動していればいいと、県の姿勢として見えてしまう点があるので、県としてどこを目標としていきたいのかを意識して、次期計画では目標を設定するべきではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
6	助川委員	構成施策A 現状について	横浜はすごく洋風なイベントが多いと感じている。外国の文化を発信するイベントは見たことがあるため、日本の文化を発信するイベントを積極的に実施したほうが良いいのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
7	橋本委員	二次評価について	指標の「満20歳以上の人の週３日以上のスポーツ実施率」が下がっている。週３回以上となると、日ごろから習慣化して自主的にやっている方、習い事でやっている方になる。普段スポーツをしていない方が、どれだけ実施につながったのかというところが重要なので、もう少し数字でわかるとよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	橋本委員	二次評価について	指標「満20歳以上の人の週３日以上のスポーツ実施率」について、「満20歳以上」だと年代として幅広いので、年齢区分を分けて情報を把握した方がよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ5　観光・地域活性化					
1	海津委員	指標の設定について	観光消費額に係る指標の動向は、いずれも目標値をはるかに超えているため、この目標値で妥当であったのか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
2	海津委員	二次評価について	『延べ宿泊者数』は、県全体の数値であるが、横浜市・川崎市は仕事での宿泊が非常に多い。そのため、観光の視点で考えた場合、箱根町や鎌倉市など、エリア別に見ないと実態が見えてこない。中身を見ていかないと、この先どのように進めていくべきか、政策の計画が立てられないのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	海津委員	二次評価について	「入込観光客数」については、国の数値がすでに発表されているため、国と比較して、神奈川県の伸び率がどうだったのかなど、データの取り方については工夫していただきたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	中村委員	評価の視点について	鎌倉市の視点からするとオーバーツーリズムをどうするかという問いの立て方になるが、神奈川県という広域の視点では、観光客をどのように周遊につなげていくかということが必要となるので、評価にはその視点を入れてもいいのではないか。	対応済み	
5	遠原委員	構成施策B 評価分析について	「今後の方向性」では、県として、課題ある地域を取り上げていくということを意識したほうがいい。	対応済み	
6	遠原委員	構成施策B 評価分析について	me-byoエクスプラザについて、解説する文言があった方がわかりやすい。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策Bの【KPIの達成状況】の表記を改めました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
7	遠原委員	構成施策B 評価分析について	分析の中で、目標値を達成しているＫＰＩに関する分析を記載したあとに、me-byoエクスプラザの未達成の数値について記載するほうがわかりやすい。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
8	海津委員	二次評価について	観光と移住・定住を同じプロジェクトに位置付けることに違和感がある。観光と移住定住は、関係があるようで実はないため、一緒に評価するというのは悩ましい。可能であれば、最終評価の記載も、観光と移住定住で、書き分けた方がよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
9	海津委員	構成施策B 評価分析について	評価報告書は公開していくため、県として県の観光をどう評価しているかと県民は読む。そのため、県として三浦半島地域や足柄地域に焦点を当てていることがわかるように、分析の部分で記載した方が良い。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ6　経済・労働					
1	助川委員	二次評価について	DXは少しずつ進んでいると感じる。一方で、実証実験や導入をすることが、必ずしも企業の利益につながっていないため、企業も最初は推進するが、売上げに繋がるかは不透明であるため続けない、若しくは規模を拡大しない。そのため、まずは企業の経営層によるDX理解の促進が重要である。そこで、IT資格取得の推奨・評価制度の導入を検討すべきであり、その資格を取得することで、個人や採用した企業も評価されるといった状況にするのが好ましい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
2	助川委員	構成施策B 現状について	大企業はすでにDXを進めているが、中小企業では導入が進んでいない。中小企業でDXの導入が進まないと、県全体として進まないため、大企業は自社だけでなく、取引先も含めた中小企業も助けて一緒にDXを進めていくような事例があれば良い	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
3	遠原委員	構成施策B 現状について	県として、障がい者雇用に積極的に取り組んでいる企業に対して、認証を与えるなどの制度を作れば、わかりやすく可視化することができる。企業が何に取り組めばよいか分からない場合は、県として目標数値を設定し、提示する。できれば県の補助金等で、認証があれば優遇されるなどのメリットがあれば、中小企業も取組を進めることができるのではないか。	対応済み	
4	遠原委員	二次評価について	障がい者雇用を啓蒙するにあたり、研修会などを開く際、はじめは意識の高い人が参加するが、回を重ねると参加者は必ず減っていく。その場合は、認証制度のような、企業側のメリットがあることを検討するとよい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	海津委員	指標の設定について	南足柄のあたりは水を使った企業が多くあるため、そういったフィールドや企業がどの程度あるか見える化することで、観光の視点から協力する企業がどの程度あるか指標化でき、プロジェクト５「観光・地域活性化」とプロジェクト６「経済・労働」を繋げることができる。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ7　農林水産					
1	助川委員	構成施策A 現状について	ドローンや温度センサーによる生育環境のデータ化など、デジタル化により作業の効率化が進んでいることはよいと思うが、農家の利益に直接つながっていない。 スマート技術を導入しても、農家の利益に繋がらなければ、導入は進まない。生産者だけでは解決が難しい課題であるため、「生産者」、「卸売業者」、「小売業者」、「消費者」を繋げるプラットフォームを行政で作り、見える化を通じて、コストダウンに繋がれば、スマート農業が普及するのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
2	海津委員	二次評価について	プロジェクト７「農林水産」については、外部からの影響が様々あり、気候変動については、農業、漁業の両方で大きな影響を受けている。こうした問題は、個々の生産者では解決できず、県や国と連携して取り組むことが求められている。計画策定時には記載がなかった項目で、これから対応が必要となるため、報告書の中でも触れた方が良いのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	海津委員	二次評価について	農家及び農業人口は、データ集を見ると、過去から激減している。新規就農者数は横ばいだが、農業者全体は減っている現状がある。農業を継続する上でコストがかかることについても留意しなければ、新規就農者は増えていかないのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	遠原委員	構成施策A 評価分析について	今後就労者は減少していくことが前提にあるので、就労者の増加を測るというＫＰＩは避けた方がいいのではないか。今後明らかに就業人口は減る傾向にあり、農業分野についても同様である。そのため、就労者を増加させていくことは難しいので、評価報告書では県として取り組んでいる内容を強調した方がよいのでないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策A「安定した食料等の生産基盤の構築」の「KPIの達成状況」に取り組み内容を記載しました。
5	河野委員	二次評価について	本県は県西部と都市部で農業の実態が異なるため、県のエリアに応じた支援の方法を検討するべきではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
6	中村委員	県による一次評価 総合分析	「順調に進んでいます」と評価しているが、「今後の課題」と「今後の方向性」の記載ではそのような印象を受けない。「順調に進んでいます」というのは、計画の達成状況としては、極めて順調であるが、その一方で、この分野における課題が、長期的な課題として重要なものが多々あるというところをうまくかき分けることで、順調に進んでいない印象がなくなるのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
7	中村委員	二次評価について	「GREEN×EXPO2027」に関しては、観光の部分でも関わってくる。文化芸術振興審議会でも、議論されるなど、多くの政策分野に影響を与えている。計画策定時では想定していないが、重要な事項であるので、今般の政策評価に反映させていくことが重要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
8	橋本委員	二次評価について	自分自身、県西の中でも人口の少ない街に住んでいるため、農地や森林管理の担い手不足は肌で感じている。すでに意欲を持っている人に対しての事業や仕組み等については力をいれているが、若い世代の視点から考えると、その前段階として若者が第一次産業を身近に感じられるための取組に対して力を入れていくべきではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
9	海津委員	構成施策B KPIについて	ＫＰＩとして「県民が里地里山の保全活動等に参加する人数」があるが、なぜ指標として設定しているか、その背景を書き加えた方が良い。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策B「安心・安全な魅力ある県産農林水産物の利用拡大」の「KPIの達成状況」に記載しました。
10	中村委員	用語について	評価報告書中の用語集の切り取り方は整理が必要。用語の先頭の「かながわ」から切り取っているケースやそうでないケースがある。また、単語の終わりもどこまで切り取っているのかが分かりにくい。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	評価報告書「用語集」の構成を修正しました。

資料３

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
グループC					
PJ8 脱炭素・環境					
1	佐々木委員	二次評価について	「概ね順調に進んでいます」という県の一次評価は、妥当ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
2	佐々木委員	二次評価について	KPI「脱炭素を意識した取組を行っている人の割合」は、外的な要因というよりは、県として積極的に啓蒙活動を展開すれば達成することができるＫＰＩではあるが、2025年度の達成率が下がっているため、県としてより取組を強化する必要があるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	佐々木委員	二次評価について	昨今の国際情勢によって、石油や天然ガスが入ってこなくなるおそれがある。その場合、使用電力における石炭発電等の割合が増える可能性があり、温室効果ガス排出量の削減目標の達成がより厳しくなってくるので、次年度は一層取組を強化いただきたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。
4	尹委員	指標の設定について	「ＫＰＩ」については、各年度で目標が設定されているが、「指標」については、最終年度の目標以外、各年度の目標が設定されておらず、各年度の進捗を測るうえでは難しい書き方になっているため、「指標」の数値が本当に順調なのか、概ね順調なのか判断が難しいところがあった。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
5	国崎委員	二次評価について	「新車乗用車販売数に占める電動車の割合」について、販売数が減少したとあるが、県内の電気スタンドは、どのぐらい普及をしているのか。環境整備が追いついていないことによって、不便を感じ、または災害時の不安等を感じて、購買に至らないということもあるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
6	小野島座長	構成施策B KPIの達成状況	「県有施設での電力利用における再生可能エネルギーへの切り替え率」は、2025年に大きく進み、達成率が155.1%になっている。これは、次年度以降の実績も同様の数値が続いていくのであれば、目標を変えない限り、達成率が増加し続けることになるので、目標値の見直しが必要になるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
7	佐々木委員	二次評価について	AIの需要という点から、今後データセンターが増えていくということが言われている。指標の目標設定当時と産業構造は変わっており、高炉の停止で温室効果ガスの排出量が減ったように、データセンターを誘致することで増えるということもある。そうした視点を常に忘れないようにして、「ＫＰＩ」の達成状況だけではなく、丁寧な分析をして評価をしていくことが重要になるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ11 くらしの安全					
1	山岸委員	構成施策A 主な事業の取組状況	「主な事業の取組状況」の「情報技術を悪用した犯罪に対応する警察官の捜査能力等の向上を目的とした研修実施回数」について、2025年度実績が大きく増えている。例えば、2025年度から新たに警察署での研修を開始したということであれば分かるが、2024年度と2025年度で実施回数の集計方法を変えたことで増えているのであれば、カウントの仕方を変更に至った理由等も説明するべきではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策Aの「主な事業の取組状況」「情報技術を悪用した犯罪に対応する警察官の捜査能力等の向上を目的とした研修実施回数」の集計方法を統一した表記に修正しました。
2	国崎委員	指標の設定について	重要犯罪、特殊犯罪、サイバー犯罪の認知件数は増え、県民の不安感が高まっている状況となっている。一方、自主防犯活動団体については、高齢化などにより登録数が減少しており、地域の防犯力が今後弱まっていくことが見込まれる中、次年度以降、目標を達成できなくなるのではないかという不安がある。高い目標を持って取り組んでいくことは大事なことであるが、現状のままだと目標値と実態が乖離していくのではないかという不安もあるため、 目標値の立て方をどうするのかという点は、議論が必要ではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
3	国崎委員	二次評価について	今年から、自転車運転者を対象に、一時不停止などの交通違反に対し反則金を納付させる「青切符」が導入されたということもあるため、もう少し自転車の対策に力を入れてもいいのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	国崎委員	二次評価について	主な事業の取組状況の「地域防犯カメラの補助台数」については、目標値が入っていない。近年の事件の解決に大きく資するこの防犯カメラの設置が、以前とは違って、ある方が安心するという住民の意見も多くなってきているため県としてどのくらい各市や地域にあることが理想なのか検討してもよいのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	山岸委員	指標の分析について	指標の「『犯罪や交通事故がなく安全で安心してくらせること』に関する満足度」が下がっている中、県では課題として、高齢化が進んでいることや犯罪が複雑化していることを理由に挙げられている。そうした外部の要因分析をすることは大事である一方、県としての取組について、もう少し努力が必要ではないかと思われる指標も見られる。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
6	尹委員	関連する統計データの分析について	関連する統計データ「消費生活相談件数」などは、オンラインか、オフラインかで、今後の対応が変わってくるので、明確に分かるようにしておくとよいのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
7	尹委員	構成施策C KPIの分析について	「消費生活出前講座」については、対象としている年齢層によって有効な取組方法は変わってくるのではないか。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
8	国崎委員 山岸委員	構成施策A KPIの分析について	「関係機関・団体等と連携した大規模な防犯キャンペーンの参加人数」について、3回のうち1回は津波警報が発令されて中止したとのことだが、そういった客観的、合理的な理由がある場合は、評価報告書に記載したほうがよいのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策A KPI「関係機関・団体等と連携した大規模な防犯キャンペーンの参加人数」の枠外に達成率減少の理由を記載しました。
9	小野島座長	二次評価について	「県民ニーズ調査」における満足度が下がっているということは、県民の肌感覚と違っている可能性がある、ということを重く受け止めるべきである。県として、様々な取組を行った結果として今後、満足度を引き上げる見込みがあるということを記載しないと、県民からどうして評価が高いのかという意見が出るのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「評価のポイント」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ12 危機管理					
1	国崎委員	指標の設定について	「ビッグレスキュー・かながわ消防などの訓練参加人数」は、昨年は三浦半島という立地にもかかわらず、多くの方が参加してくれた。ただ、この訓練の参加人数は、県の人口や近年の災害の多発化・激甚化を踏まえた中で、目標数としてが適当なのか。また、この訓練の参加人数で目標を達成し、はっきりと順調なんだということが言えるのか。そもそも目標値が低いのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
2	国崎委員	二次評価について	「防災関連のホームページやSNSなどのデジタル媒体へのアクセス数」が2024年に大きく増えているにも関わらず、ビッグレスキューの参加人数は微増である。「かながわ版ディザスターシティを使用した訓練への消防団員及び自主防災組織の延べ参加人数」もかなり減っている。地域の防災力も含めてかなり低下しているような気がするので、昨年度も議論があったように、ＫＰＩは達成しているが、考察、評価では、全体の目標値を大きく上回るような数値を目指していくことが理想であると、課題と方向性の中で記載があると良いのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
3	尹委員	二次評価について	指標の「『大地震などの災害がおきても３日間はくらせるように、防災の準備が出来ている』人の割合」は、県民の自助努力の意識を指し、「『地震、台風、火災などへの対策が十分に整っていること』に関する満足度」は、県の取組に対して、県民がどう満足している、考えているのかということを指している。それを踏まえると、自助努力は上がっている中、県への満足度が下がっている状況は課題だと思っている。県の取組についての満足度は、今まで県として取り組んできたことがある程度あったと思うが、近年の災害の激甚化が課題になっている中、県に対して「さらに」ということが求められている証拠で、そうしたデータとして読み取れるのではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
4	佐々木委員	二次評価について	「『地震、台風、火災などへの対策が十分に整っていること』に関する満足度」については、約80%の県民が不満に思っていることなので、どういった点に満足できていないか分析が必要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
PJ13 都市基盤					
1	尹委員	二次評価について	関連する統計データの「県立都市公園の利用者数及び利用者満足度」は高い一方で、「「自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること」に関する満足度」が低いため、原因を分析する必要がある。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
2	尹委員	構成施策B KPIの分析について	ＫＰＩに「新規に事業化される市街地再開発事業地区数」があるが、県がこの関係で何かに取り組むことは難しいのではないか。社会状況の問題や地権者との調整により進めるもので、自動車専用道路などは県が取り組む余地があるが、市街地再開発事業の場合はなかなか難しい場合もあるので、県が何かをしたといいにくく、指標としての難しさが課題としてある。 神奈川県に特徴的なエリアがあるので、今後分析を進めるときには満足度を市町村別のデータなどで把握すると、満足していないエリアの特定の助けになると思うので、エリア別の把握を検討いただきたい。	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考とさせていただきます。	
3	国崎委員	構成施策B 分析について	一次評価の総合分析に八潮市で起きた道路陥没の話が記載されているが、最近の世田谷区の公園や街路樹の安全性について、都市基盤の中で触れることを検討すべきでないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策B「活力と魅力あふれる強靭なまちづくりの推進」の「分析」に記載しました。
4	国崎委員	二次評価について	主な事業の取組状況で記載されている道路台帳の電子化率については、２年連続で目標値を下回っている。電子化を進めることは大切なことなのでしっかりと進めてもらいたい。	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。	二次評価の「今後の課題と対応の方向性」に記載しました。
5	山岸委員	指標の設定について	公園でも、安全、安心に利用できることが、より一層求められるようになったことを考えると、今後は、満足度だけではなく、安全度、安心度のような指標の在り方を検討するべきではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定作業の中で検討してまいります。	
6	山岸委員	構成施策B 分析について	八潮市の件では、事故を見たとき県民が「自分の県は大丈夫なのか」ということが一番の疑問、不安点だと思う。下水道を管轄する部署では、調査に関する情報を打ち出していたことは良いことだと思うが、「調査の結果、大丈夫だったのか」ということが一番重要。そのため、報告書を通して、行政的な対応を適切に行った点について、県民への安心感を与えられるような言及があってもいいのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策B「活力と魅力あふれる強靭なまちづくりの推進」の「分析」に記載しました。

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等
7	佐々木委員	構成施策B 分析について	主な事業の取組状況において、下水道の点検延長は目標24.6kmに対して79.4kmの実績となり、計画を大きく上回っている。老朽化対策の視点では、ＫＰＩ「道路施設の長寿命化計画に沿った修繕箇所数」も2024年度の33件に対して、2025年度104件と大幅に実績が増えている。 目標を達成できなかったため、評価上、できなかったことを書くことは当然ではあるが、逆に「順調に進んでいる」という文脈の中では、県として積極的な取組を行っているということをもっと記載しても良いのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。	構成施策B「活力と魅力あふれる強靭なまちづくりの推進」の「分析」に記載しました。
8	尹委員	構成施策B 関連する統計データについて	「「自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること」に関する満足度」に関連して、関連する統計データが都市公園に限定されているが、例えば県立の文化施設などの公共施設のデータを追加するべきではないか。文化施設の利用者数や利用満足度など、県のアピールになる。	対応済み	